

JAうご自己改革取組宣言

これまでも、これからも、組合員・地域の皆様とともに

JAうごは「総合事業」を展開します

- 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組めます。
- このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。
- そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、組合員・地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力を合わせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の進行を目的に、農産物の販売や、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結び付け、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方でも、JA各事業をご利用して頂いている方を、JAの応援団として准組合員に加入頂いております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

主な具体的な取り組みは次のとおりです。

I. 営農指導事業（予算額 34,943 千円）

①【農畜産物生産指導】

圃場巡回等現場生産対応を第一に、県農業振興普及課・試験場・種苗会社・肥料農薬メーカー・飼料会社・全農あきた等、関係機関との連携強化による現場生産指導の実施と県農業公社と連携した経営コンサルティングを実施

②【生産の目安と米穀事業】

町再生協議会からの生産の目安について周知を図り、卸・米穀店等、実需者からの需要量調査をもとに確実に販売可能な数量を把握する。その上で農家からの契約数量の早期取りまとめを実施し、計画的な生産と販売を実施。

③【大規模園芸団地の支援】

大規模園芸団地第1・第2団地の円滑な稼働に向けた支援。

④【担い手対応】

町・関係機関と連携し、人農地プラン推進協議会（仮称）に立ち上げに係わり、農地中間管理事業を活用し、法人・認定農業者を含めた担い手への農地の集積を推進。

⑤【JAうご独自対応】

高品質にこだわった商品開発と生産流通対応を実施。

| | |
|------|-------------------------------|
| 米 | ：「極上米」「みほうまれ」「減減秋田コシ」「秋田酒こまち」 |
| みそ | ：「樽の音」 |
| 西瓜 | ：光センサー「アカオニ」、小玉「チツチェ」の市場一本化 |
| きゅうり | ：DBへの市場名印字による有利販売（ブラック） |
| 花卉 | ：DBへの日持ち認証マーク印字による差別化 |
| オクラ | ：GI取得によるブランド化 |

Ⅱ. 信用（JAバンク）・共済（JA共済）両事業の取り組み

①信用事業

農業、生活メインバンクとしての機能を発揮し、経済事業並びに共済事業と連携した渉外活動による情報収集と共有により、農業者への適切な資金対応を行い農業者の所得増大と地域の活性化の実現に向け積極的に取り組みます。

主な農業関係資金取扱計画

| | |
|-----------------|-----------|
| 農業近代化資金 | 10,000 千円 |
| アグリマイティー資金 | 35,000 千円 |
| 農機ハウスローン | 5,000 千円 |
| 農林漁業経営フォローアップ資金 | 10,000 千円 |

②共済事業

地域特性に応じた推進計画の策定・活動の実践を通じて、次世代・次々世代層への保障提供を強化するために、エリア特性に応じた「3Q訪問活動」を実施し、保障点検・提案活動を積極的に取り組みます。

長期共済・短期共済の推進総合目標 1,350,000 ポイント

Ⅲ. 暮らしの活動を通じた地域、コミュニティの活性化

組合員と地域住民による地域に根ざしたJA活動を通じ、豊かな地域社会の実現に向け「食と農」・「暮らし」に根ざした地産地消運動、食農教育に積極的に取り組みます。

- 青年部・女性部と連携し、地元小学校での学校農園及び食育活動支援
- JA収穫感謝祭を通じた、組合員・地域住民の交流活動